

嘉手納基地における米軍機の騒音激化に厳重に抗議する意見書

嘉手納基地に常駐配備されているF-15戦闘機の段階的退役に伴い、F-35A及びF-15E戦闘機等が巡回配備され、嘉手納基地周辺では米軍機から発生する騒音が激化している。

町の測定調査によると、今年5月の騒音発生回数は屋良測定局で1,545回、嘉手納測定局1,522回、兼久測定局1,035回、ロータリープラザ測定局1,743回が計測され、巡回配備前の昨年10月と比較すると屋良局で約2.1倍、嘉手納局約1.8倍、兼久局約2.2倍、ロータリープラザ局約2倍と町全域で騒音が大幅に増加していることが明らかになった。

このようななか、米軍は7月2日から21日までの日程で太平洋地域における大規模演習「ノーザン・エッジ23-2」を実施しており、その一環としてF-35A戦闘機12機、F-18戦闘機12機及びEA-18電子偵察機6機程度が嘉手納基地に展開。一方、嘉手納基地からもF-15E戦闘機12機、F-35A戦闘機12機が他基地に展開する演習が実施されている。

これに加え、常駐機、巡回配備機、外来機が入り混じって昼夜問わず轟音を立てながら断続的に離発着、急上昇離陸訓練を繰り返し、また住民居住地上空を甲高い金属音を轟かせ急旋回飛行する様子も度々確認されている。さらに悪臭被害を訴える声も相次ぐなど、米軍の傍若無人な基地運用は受忍限度をはるかに超えており、我慢に我慢を重ねてきた町民の怒りは頂点に達しつつある。

また、住民居住地に近接しているパパループ地区においては、当初説明があったMC-130特殊作戦機が使用すると説明に反し、KC-135空中給油機が頻繁に使用していることが確認されており、7月5日にはロータリープラザ測定局において早朝3時半から1時間半の間に15回計測。嘉手納測定局でも深夜0時過ぎから1時間余の間に22回の騒音が計測されるなど深夜・早朝にエンジン調整音が鳴り響き、周辺住民の安眠をも妨げる騒音被害が発生している。

そもそも、本町及び議会はパパループを使用することに反対し一切の使用禁止を求めている。さらに「嘉手納飛行場における航空機騒音規制措置」においては夜10時から早朝6時までの間の飛行及び地上での活動が原則禁止されているなかでの現在のパパループの運用は、今後も恒常的に使用する米軍の意図が感じられ強い憤りを禁じ得ない。

日米両政府においては、平成22年に日米安全保障協議委員会の共同発表で確認された嘉手納基地における負担軽減に基づき、町民が実感できる有効な対策を早急に講じることを改めて強く求めるものである。

よって、嘉手納町議会は町民の生命、安全及び健康で平穏な生活を守る立場から、嘉手納基地における米軍機の騒音激化に厳重に抗議するとともに下記事項の速やかな実現を図るよう強く要望する。

記

- 1 嘉手納基地への外来機の飛来を禁止すること。
- 2 「嘉手納飛行場における航空機騒音規制措置」を遵守すること。
- 3 パパループの使用を即刻停止し、今後一切の使用を禁止すること。
- 4 嘉手納基地における負担軽減（嘉手納における更なる騒音軽減）に基づき、町民が実感できる有効な対策を早急に講じること。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

令和5年7月19日
沖縄県嘉手納町議会

(あて先)

内閣総理大臣 外務大臣 防衛大臣 内閣官房長官（沖縄基地負担軽減担当）
沖縄及び北方対策担当大臣 外務省特命全権大使（沖縄担当） 沖縄防衛局長
沖縄県知事

嘉手納基地における米軍機の騒音激化に厳重に抗議する決議

嘉手納基地に常駐配備されているF-15戦闘機の段階的退役に伴い、F-35A及びF-15E戦闘機等が巡回配備され、嘉手納基地周辺では米軍機から発生する騒音が激化している。

町の測定調査によると、今年5月の騒音発生回数は屋良測定局で1,545回、嘉手納測定局1,522回、兼久測定局1,035回、ロータリープラザ測定局1,743回が計測され、巡回配備前の昨年10月と比較すると屋良局で約2.1倍、嘉手納局約1.8倍、兼久局約2.2倍、ロータリープラザ局約2倍と町全域で騒音が大幅に増加していることが明らかになった。

このようななか、米軍は7月2日から21日までの日程で太平洋地域における大規模演習「ノーザン・エッジ23-2」を実施しており、その一環としてF-35A戦闘機12機、F-18戦闘機12機及びEA-18電子偵察機6機程度が嘉手納基地に展開。一方、嘉手納基地からもF-15E戦闘機12機、F-35A戦闘機12機が他基地に展開する演習が実施されている。

これに加え、常駐機、巡回配備機、外来機が入り混じって昼夜問わず轟音を立てながら断続的に離発着、急上昇離陸訓練を繰り返し、また住民居住地上空を甲高い金属音を轟かせ急旋回飛行する様子も度々確認されている。さらに悪臭被害を訴える声も相次ぐなど、米軍の傍若無人な基地運用は受忍限度をはるかに超えており、我慢に我慢を重ねてきた町民の怒りは頂点に達しつつある。

また、住民居住地に近接しているパパループ地区においては、当初説明があったMC-130特殊作戦機が使用すると説明に反し、KC-135空中給油機が頻繁に使用していることが確認されており、7月5日にはロータリープラザ測定局において早朝3時半から1時間半の間に15回計測。嘉手納測定局でも深夜0時過ぎから1時間余の間に22回の騒音が計測されるなど深夜・早朝にエンジン調整音が鳴り響き、周辺住民の安眠をも妨げる騒音被害が発生している。

そもそも、本町及び議会はパパループを使用することに反対し一切の使用禁止を求めている。さらに「嘉手納飛行場における航空機騒音規制措置」においては夜10時から早朝6時までの間の飛行及び地上での活動が原則禁止されているなかでの現在のパパループの運用は、今後も恒常的に使用する米軍の意図が感じられ強い憤りを禁じ得ない。

日米両政府においては、平成22年に日米安全保障協議委員会の共同発表で確認された嘉手納基地における負担軽減に基づき、町民が実感できる有効な対策を早急に講じることを改めて強く求めるものである。

よって、嘉手納町議会は町民の生命、安全及び健康で平穏な生活を守る立場から、嘉手納基地における米軍機の騒音激化に厳重に抗議するとともに下記事項の速やかな実現を図るよう強く要望する。

記

- 1 嘉手納基地への外来機の飛来を禁止すること。
- 2 「嘉手納飛行場における航空機騒音規制措置」を遵守すること。
- 3 パパループの使用を即刻停止し、今後一切の使用を禁止すること。
- 4 嘉手納基地における負担軽減（嘉手納における更なる騒音軽減）に基づき、町民が実感できる有効な対策を早急に講じること。

以上、決議する。

令和5年7月19日
沖縄県嘉手納町議会

(あて先)

駐日米国大使 在日米軍司令官 在沖米四軍沖縄地域調整官
在沖米国総領事 嘉手納基地第18航空団司令官 沖縄県議会議長